伊方原発再稼働に反対する抗議文

2014年1月17日

八幡浜・原発から子どもを守る女の会
代表　斉間淳子

2011年3月11日、福島原発大事故から3年の月日が流れました。しかし、何一つ改善もされなければ、責任を負う人もいません。福島原発から大量に放出された放射能は現在も日本国中を覆い、多くの生物や植物を汚染し続けています。福島原発から流れ出た汚染水は、太平洋に流れ込み、海の生き物を汚染し続けています。福島から避難した多くの人は、故郷を失いました。

この現状を見るにつけ、伊方原発のそばで暮らす私たちは恐れおののいています。2度と同じような惨事を起こしてはいけないと強く強く思わずにはいられません。

かって、原発は国策として人口の少ない過疎地に建設されました。「安全だ、安全だ」という言葉に騙され続けていたのです。原発は、決して安全ではないことを、万一事故を起こせば、放出される放射能により二度と人の住めない土地になるということを福島が私たちに教えてくれました。本当に安全な物なら、電気を大量に使う都会に建てるべきです。金で貧しい過疎地の人々の命や未来を買うようなことはしないで下さい。子どもや孫に始末のつけられない放射性廃棄物を残さないで下さい。貧しくてもいいのです。私たちは安心できる社会を子どもたちに残してやりたいのです。

核と人類は共存できません。それを福島が身をもって教えてくれたではありませんか。

国も電力会社も安全が確認されたもの、安全対策がとられた原発から再稼働しようと目論んでいます。しかし、安全な原発などないのです。安全な対策などないのです。原発の傍で暮らす私たちの命や未来を奪わないで下さい。原発反対は、思想でも信条でもありません。生き物の生命への願いであり。叫びなのです。私たちは福島のようにはなりたくありません。伊方原発の再稼働には絶対反対します。